

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2011年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院	文学研究科	超域文化学 専攻
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科超域文化学専攻博士後期 1年	名村優子	印
<b>指導教員</b>	所属・職名	氏名	
	文学部教授	丸山浩明	印
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然 ・ <input type="checkbox"/> 人文 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 社会	<b>個人・共同の別</b>	<input type="checkbox"/> 個人 <input checked="" type="checkbox"/> 共同 名
<b>研究課題名</b>	1920～30年代のブラジル日本人移民における民間定住移住地建設と中産階級の移住		
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	文学研究科超域文化学専攻博士後期 1年	名村優子	
<b>研究期間</b>	2011	年度	
<b>研究経費</b>	200	千円	

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、明治期の北米移民と、満州事変以降の満州移民の間であって、等閑視されてきたブラジルへの移民を歴史的に意義づけることを目的とする。特に 1920～30年代に建設された定住移住地の分析から、日本の勢力圏外に建設された定住地の実態を明らかにしたい。その際、中産階級を中心とした民間による定住移住地建設運動と日本の移民政策、ブラジルの移民政策が、移住地経営にどう影響したかに着目したい。

研究事例として、1924年サンパウロ州奥地に民間団体によって建設されたアリアンサ移住地を取り上げる。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ 移民と植民 ] [ 中産階級 ] [ キリスト教と移植民 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本年度は、研究対象とするアリアンサ移住地に関する基礎資料の取得・整理と、1924年に民間団体によって移住地が建設されてから1938年に国策現地法人の管理下に入るまでの経緯と変遷を明らかにする事を目標とした。

1908年に始まった日本からのブラジルへの集団移民は、1920年代に入って送出数の隆盛をみるとともに、政策的・質的な転換がみられた。その1つは、1925年の渡航費全額国負担などにみられる移民奨励によるブラジル移民の国策化であり、もう1つは1927年の海外移住組合法公布などにみられる定住移住地建設と中産階級の移住であった。

アリアンサ移住地は、これら2つの転換に先駆けて、1924年に民間団体である信濃海外協会によって建設された定住移住地であった。また、この移住地には、土地取得に携わった永田稠をはじめとして、キリスト教移植民機関「日本力行会」が深く関わっており、キリスト教精神に基いて理想郷を建設する、という理念が強かった。

しかし、建設後の移住地経営はコーヒー暴落、不在地主問題などにより混迷し、また出身地や渡航形態等の異なる入植者同士の利害対立も激しかった。経営立て直しのために国策機関「海外移住組合連合会」のブラジル現地法人である「ブラジル拓殖会社」の管理を経て移住地内自治組織による管理運営を目指す、最終的な運営体制の確立と負債や土地所有関係の整理は戦後を俟つこととなる。

アリアンサ移住地の設立と変遷は、民間主導の移住地建設運動が独自の理念を掲げ国策に影響を与えながらも、実際の移住地経営においては困難を抱え、国家の補助を必要としたことを示している。また、信濃海外協会・信濃海外移住組合の移住地経営と移民募集の手法は、長野県内において後の満州移民送出へと繋がっていくこととなる。

このような背景を踏まえた上で、本年度は主に(1)アリアンサ移住地の概要把握(2)1920~30年代の日本の移民政策の検討(3)アリアンサ移住地に関する文献・史資料の収集(4)ブラジルでのフィールドワークを行った。

(1)アリアンサ移住地の概要把握においては、移住地で刊行された『創設十年』『創設二十五年』『創設四十五年』『創設五十年』等の内容をまとめ、戦前期の移住地管理団体の変遷や移住地内組織の把握を行った。これらの文献から、戦前期のアリアンサ移住地は①1922~1924年：移住地建設運動期②1925~27年：海外協会の運営時期③1928~1938年：海外移住組合の運営時期(ブラ拓管理に入るまでの紆余曲折期)④1939~1940年：ブラ拓管理期⑤1941~1945年：自治団体管理模索期の5期に区分した。

(2)1920~30年代の日本の移民政策の検討については、1924年の帝国経済会議、1927年の海外移住組合法に関する史料・文献を収集し、内容をまとめた。帝国経済会議とこの時期の移民政策については、三輪公忠編著『日米危機の起源と排日移民法』を参照した。海外移住組合法案については、外交史料館所蔵の海外移住組合法案関連史料から内容をまとめた。

(3)アリアンサ移住地に関する文献・史資料の収集では、主に①長野県立図書館に所蔵されているアリアンサ移住地の案内書や報告書類、②長野県立歴史館に所蔵されている信濃海外協会および信濃海外移住組合の報告書や土地台帳、理事の通信資料、宣伝資料、③日本力行会所蔵のアリアンサ土地所有図や、日本力行会関係者とアリアンサとの書簡を収集した。①に関しては新たに21点の書籍や印刷物を複写し、以前収集した分と合わせて52点となった。②については、収蔵している317簿冊のうち52簿冊を閲覧し、37簿冊を撮影した。③については、会の所蔵している移住地関連の書簡約330点を全点撮影した。

(4)ブラジルでのフィールドワークにおいては①ブラジル拓殖組合関係史料の閲覧②アリアンサ移住地在住者・出身者へのインタビュー③サンパウロ人文科学研究所研究会での報告を行った。

研究成果の概要 つづき

※ この(様式 2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

② 図書 (発表予定) コラム「ブラジルを目指した女性」. 森本豊富・根川幸男編著 2012  
『トランスナショナルな「日系人」の教育・言語・文化』明石書店 (総ページ数未定).